

## サ行五段活用動詞のイ音便

—西日本方言について—

鎌 田 良 二

### (一)

カ行五段活用動詞「書く」「咲く」が「書いて」「咲いて」となり、同様にガ行に活用する語「泳ぐ」が「泳いで」となるイ音便の形は、その成立においては音韻問題として取扱われるものである。即ち、**k**、**g**の音の脱落現象である。これがこの種に活用する語すべてにあらわれたので、イ音便形はカ行ガ行五段活用動詞に限るものとされているが、サ行五段活用動詞の連用形「し」の子音**ʃ**が脱落して「イ」になる現象も考えられることで、実際に「傘をさして行く」が「傘をサイテ行く」の形になることは、かなり古い時代からあることのようなだ。

ただ、サ行五段活用動詞のイ音便の現象が、この活用をする語のすべてにあらわれたかどうか。

どうであったか。また、どうであるか。

今回はここに、どうであるか。の問題について、西日本各地の現在の状態についての調査結果を示すことにする。

「日本方言の記述的研究」（国立国語研究所編）に和田実氏が「兵庫県高砂市伊保町」について示されたものがある。

同書では同地点の80才の女の人について調査した結果、イ音便になる方が自然だとの答を得た語——出ス、刺ス、<sup>しほ</sup>燈ス。イ音便になるものとの答を得た語——荒ス、浮カス、写ス、起ス、落ス、下ロス、隠ス、返ス、〔戻ス、覆ス〕、乾カス、崩ス、殺ス、探ス、残ス、外ス、放ス、干ス。イ音便にならぬものとの答を得た語——動カス、押ス、オビヤカス〔小豆を煮るとき水をさす〕。

貸ス、暮ス、サマス、晒ス、通ス、飛バス、流ス、直ス、ヒヤス、(子供を)遊バス。

このように、或る一地点においてもサ行イ音便になる語、ならない語があるようである。

それで、今回は和田実氏のこの論文に示唆を得て、和田氏の語例から15語を選んで西日本各地の状況を調査した。

## (二)

この調査は通信調査によるものである。

依頼のための文としては、おおよそ次のようなことを記した。

次の15語について、イ音便になるかどうかを答えて下さい。例えば、「傘さして」を「サイテ」「残して」を「残イテ」となるときは「サイテ」の欄に○印、ならないときは×印をして下さい。また、「残エテ」のように「エ」になるときは「残エテ」の欄に○印。このイ、エが、イとエとの中間音のときはヱと記して下さい。「(傘) サアテ」のように「ア」になるときは、「その他」の欄に「ア」と記して下さい。「傘セエテ」となるときも「その他」の欄に「セエテ」と記して下さい。

なお、この語形を使用するのが、老人層に限る場合は「使用層」の欄に「老」。青年層に限る場合は「青」と記して下さい。

以上のような文面で、往復ハガキ 700 枚を準備し、はじめに、福井県と、近畿二府県五県、中国五県、四国四県の各市、各郡毎に、1乃至3地点を選んで中学校国語科主任宛に依頼した。

中学校に依頼したのは、殆どの市町村に少くとも一校はあるということであり、校区も高等学校のように広くはないということのためである。

国語科主任に依頼したのは、主任が他の土地の出身であっても、他の国語科の人に、また、その土地の人と相談してもらえるだろうし、殊に、今回のように文法に関する調査では、直接に土地の老人にたずねると、こちらの意図したこととは全く関係のない答になってサ行音便化の調査にならないこと

がある。それも臨地調査ならば重ねて説明することもできようが、通信調査ではたずねているこちらの意図が通じなければ全くむだなことになってしまう。その点、土地のことばを知っている国語科の教師が好都合である。

調査ハガキの発送は昭和42年9月からはじめたが、返送されて来たものを見ると福井県ではイ音便になる地点が多いことがわかったので、さらに、石川県を加え、さらに富山県を加えてみた。

また、九州7県も加えた。

返答のない地点には、同一市町村内の他の学校に依頼したが、二度三度と重ねても返答のない地点はあきらめてやめたものもある。

結果を地図に書き入れつつ、広い郡には、さらに他の地点を加えることもした。

こうして700通の中、413通の返答をえた、内、九州は85通である。

この返答により各地点のイ音便化の状況を本稿末の表にまとめた。

調査地点の地名は、各府県内の点線より上は市部、点線より下は郡部である。

市の次に記した地名は市内の町名または区名である。郡の次に記したのは町村名である。例えば、富山県の「滑川・下島」は「滑川市下島町」、点線の下「下新川・朝日」は「下新川郡朝日町」である。

地点は各県毎に、なるべく、北、東から、南、西へという順にならべた。

調査地点名の左に①のように記した番号は稿末にあげた地図の番号である。

○印はイ音便になるもの、△印はイ音便になるがそれは老人層に限る場合、▽印は中学生から青年層、▽印は幼年層に限る場合である。

「ス」「ヒ」などと記したものは「浮カステ」「出ヒテ」などとなるものである。「イェ」はイとエとの中間音である。

「セェ」「デェ」は「傘セェテ行ク」「(出)デェテ」となるものであるが、「浮」に「チィ」と記したのは「(浮)ウチィテ」となるものである。

語幹のはじめの音節から記したものと、第二音節から記したものとがあることになるが、表をなるべく簡単にするためにこのような形にした。

「エ△」は例えば「残エテ」の形が老人層にのみあって、一般には「残シテ」となるものである。

したがって「エ△イ▽」は、老人層は「残エテ」で、青年層は「残イテ」となり、一般には「残シテ」ということになる。×印は、「残シテ」の形になるものである。語の配列の順は別に意味はない。

本稿の後に地図を付したが、これは「傘さして」の語のみ、この一語について、イ音便になるもの●、ならないもの×、「その他」(エ、アなどになるもの)を○、老人層のみの使用を△とした。

### (三)

本稿の後にあげた(表)についての考察をするにあたって、まず、各府県ごとに概観する。

富山・石川両県はイ音便になるものが多いが、「押ス」に限ってならないのはなぜだろう。

「押ス」が「押イテ」となると、比較的使用頻度の高い「置イテ」の語と同音になりまぎらわしいためだろうか。

また、語幹がoという母音一つであり、oiとなる為に、シの子音を落すまでもなかった、即ち、語幹構成の単音がもっと多ければ、それにつく部分の一子音は落ちる可能性も多いが、ofite などでは、その中のfを落すまでもなかったのだろうか。

金沢市は老人層にのみイ音便形が見られるのであるが、一種の訛音のようなものは、一般的に、都市ほど少なく、若年層ほど少なく、さらに、若い女性ほど少ないという傾向がみられるが、その一つとして金沢市が△印となったのであろうか。

この両県は方言区画としては中部地方の方言圏に入るのであるが、このよ

うにイ音便形になる地点が多いのであれば、さらに、もっと中部地方の地点を多くとり、隣接する新潟・岐阜県なども入れるべきだったかと思う。

福井県では、石川郡に接する東北部は○印であるが、京都府に近い西南部では×印になっている。

三重県は全般的にイ音便にならないのであるが、「傘さして」だけが「サイテ」となるのは、この語が最もイ音便になりやすい形であることを物語っている。

滋賀県は郡部に限って○印がある。

京都府西部に「エ」があるのは、兵庫県北部の「エ」「キャ」の地域に連なるものである。

京都市四校に依頼したが返答がなかった。宇治市にイ音便がないのだから、京都市もおそらくないのであろう。

大阪府・奈良県も大体×印である。

このように近畿地方の中心部にイ音便形が無いということは、このような一種の訛音形は都市部では少ないのと同様にこの地域はイ音便になり難かったのだろうか。

▽印が、二、三地点に見られるが、幼年層のイ音便化は、これを一つの語形と認めてよいかどうか問題であらう。

和歌山県では三重県に接する東牟婁郡勝浦町だけが×印である。

各県の地点は、先にも記したように、県内の全部の市と郡の1乃至3地点をえらんだのであるが、返送の状態によってそれが変わって来ている。兵庫県の地点が多いのは県の面積が広く、市、郡の数が多いからである。

兵庫県では、尼崎市、西宮市、芦屋市など大阪市と隣接する地域を阪神地区と呼んでいる（大阪市も神戸市も入らない）が、市部でも、この阪神地区は×印。播磨国の播州地区の市はイ音便があることになっている。

淡路島も北部の神戸市・明石市に近いほど×印で、南部は○印である。

県北部の但馬地区では「キャ」「ジャ」などの形が多いが、この地方は一般に他の語にもこのような音が多くみられる。

鳥取・島根両県ともイ音便は多い。松江市ではイとエとの中間音があらわれている。

山陰地方に○印が多いのに対して、岡山、広島両県では「エ」になるもの「傘サエテ」の形が多くなっていく。さらに、特に岡山県では語幹から変るものが多いが、岡山方言語彙一般に拗音になるものが多いからでもあろう。

なお、調査にあたって、名詞などもシがイになることがあるかどうか、についてたずねたが、「私（ワタシ）」が「ワタイ」になるという程度の答はあったが、これとイ音便とは直接に深い関係はなさそうに感じた。

岡山県では「押ス」と同じく「通ス」も×印が多い。「押ス」については先にも記したが、**tooite** の形も **oite** と同じように考えられるだろう。

広島県に続いて山口県もイ音便は少ない。

四国の香川・愛媛・徳島三県とも×印であるが、愛媛県については、愛媛大学武智正人教授の著書「愛媛の方言」ではイ音便になる地域は次のようになっている。

「イ」になる地点

新居浜市、西条市、今治市、越智郡大三島、北条市、伊予市、上浮穴郡久万町、西宇和郡三崎町、南宇和郡城辺町

「ヒ」になる地点

伊予市、宇和島市、南宇和郡城辺町

武智氏の調査は昭和30年頃のものであるが、私が昭和41年8月末から9月にかけて愛媛県西南部地方を臨地調査した際も、イ音便形は今回よりももっと多くの地点で聞かれた。

そうなる今回のような通信調査の信頼度ということを考えなければならなくなるが、通信調査というものについて私は、あくまでも一つの傾向を知る程度のものだと思っている。こう言えば折角返答下さった方々に申しわけないことになるが、特に、音韻を基としたような調査では、ああも言う、こうも言うという「ゆれ」が多いのが本当であろう。

これが都市になればなるほど「ゆれ」も大きく幾人の人がイ音便に言う

か、言わないかと難しいことであろう。

だから、都市部では×印が多いことになっているかも知れない。

徳島県海辺郡は高知県に近いところで、高知県と同じように○印になっている。

徳島県は全般的に×印であるが、「傘サイテ」だけはあることになっている。

高知県はこの（表）を一見してわかるように殆ど全部○印であるが、「押ス」は二地点が×印、これによってもこの語がいかにイ音便になり難いかがわかる。

また、宿毛市では「干ス」もイ音便にならない。

「押ス」と「干ス」だけがイ音便にならないことは音韻の問題として考えるべきことがらがあるかと思う。

各府県の市部、郡部別の○、△、その他（エ、ヒなど）の数を次頁に示す。

市部は太字で、郡部は細字で示した。

上に「地点」と記した欄は、調査の「地点数」である。富山県では**5**市、**4**郡について調査した。その結果、「傘さして」がイ音便になる、即ち○印で答えた市は、**5**市、**4**郡であるという意である。

×印、即ち、イ音便にならない地点の数を示さなかったが、調査地点数から差引けばわかる。香川県などは×印が多いことになる。高知県の下の線以下に示した数は市部、郡部別の合計である。**121**市、**157**郡を調査した結果「傘さして」が、イ音便になるもの**47**市、**69**郡。

○印（イ音便になる）、△印（老人層のみ）（但し、この場合、▽青年層、▽幼年層など使用層に制限のあるものも△印に含めた）、「他」（サエテ、サヒテなど）は、いずれも、音便形があるという点で共通しているので、これを合計して**82**市、**113**郡が「傘さして」の音便形がある地点である。（**39**市、**44**郡が音便形なし）、さらに、これを合計して**195**地点がこの語に関して音便形あり、ということになる。

(傘)		出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
市	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他	他
山	川	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡	市	郡
富	山	5	5	4	4	4	4	4	4	5	4	1	4	3	4
郡	川	1	2	3	1	3	1	3	1	3	1	2	3	1	3
市	市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		3	3	3
郡	郡	5	4	5	5	5	5	5	5	5	2		5	5	5
市	市	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2	2	2
郡	郡	8	6	6	6	5	6	5	6	6	1		6	3	5
市	市	5	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1
郡	郡	9	4	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1
市	市	4	1	2	2	2	2	2	3	2	2		2	2	2
郡	郡	6	2	2	2	1	1	1	1	1	2		2	2	2
市	市	4	3	2	2	3	1	2	1	1	1		1	1	1
郡	郡	8	3	3	3	3	4	2	2	2	2		2	2	2
市	市	15	5	2	2	3	3	3	3	3	3		3	3	3
郡	郡	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1
市	市	3	3	1	1	1	2	1	1	1	2		2	1	1
郡	郡	5	1	1	1	1	1	1	1	1	2		1	1	1
市	市	4	4	2	2	1	4	2	2	2	1		2	2	2
郡	郡	7	5	4	4	4	4	4	4	4	3		4	4	4
市	市	13	4	2	2	5	6	6	5	3	4		5	4	6
郡	郡	23	11	3	4	13	3	11	2	10	3		7	10	8
市	市	4	3	1	1	3	1	3	1	1	2		1	2	2
郡	郡	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3		4	4	4





「○, △, その他」は、いずれも、一応は音便形があると認められるので、使用地点数の多いものから順に上から下にならべてみる。

○印のみの合計も多いものから順にならべる。

(総合順位)		(○印順位)
○ (傘) サイテ	sai—	(傘)
(乾) カワカイト	kai—	(外)
(出) ダイテ	dai—	(隠)
○ (干) ホイト	hoi—	(写)
○ (下) オロイト	roi—	(干)
(外) ハズイト	zui—	(下)
(流) ナガイト	gai—	(残)
○ (残) ノコイト	koi—	(起)
○ (起) オコイト	koi—	(出)
(写) ウッイト	tsui—	(乾)
(隠) カクイト	kui—	(落)
○ (落) オトイト	toi—	(流)
○ (浮) ウカイト	kai—	(通)
○ (通) トオイト	oi—	(浮)
○ (押) オイト	oi—	(押)

○印をつけたものは、この二つの順位でともに、殆ど同じ順位を保っているものである。

**ai** となるものが上位を占め、**oi** となるものが下位にある。**ui** となっているものは順位が大きくなっていく。

と、このような母音連続だけで見るべきかどうか。

それよりも、使用頻度の高いものほど上位にあると見るべきだろうか。

また、音節数の多いものほど順位の移動がはげしいと見るべきか。

なお「消ス」などの「ケシテ——ケイト」の **ei** となる形を調べなかったが、鳥取県は全般にイ音便になる地域だが、同県日野郡でケイトというイ音

便はなく、(消)ケシチョイテのようになるがシはそのままである。

サ行五段活用動詞のイ音便については、その使用地域を一つの境界線によって示し、この線よりも北はイ音便あり、南はイ音便なし、というような形では示すことができない。

シがイになるという一応は簡単な音韻脱落であるから、各地におこり得るものと思われる。

サ行五段活用動詞の或る一語がイ音便になれば、次々と他の語もそうなるであろう。

ただ、使用頻度の少ないものは比較的なり難いことがあると言えよう。

先にも記したように、都市部と郡部とを対比して考えるならば、都市部はやはり、市民が他の都市との間の移動があり、また、共通語化への動きが自然の中にあるだろうし、種々の理由で、イ音便化をおさえているとも言えるだろう。

その一つが、京阪神地域や、北四国などにあらわれているとみるべきだろうか。

今回の調査では **413** 校の国語主任の方から返答をいただいた。

が、ここには、その中、**278** 地点のものを記した。

九州地方もここにあわせて記したかったが、(表)があまりに多くなることと、九州は、ここにあげた岡山県よりももっと複雑に「エ」「キャ」などの形があらわれるので、別に、九州地区のイ音便について考察してみたい。

**413** 校の方々に深く感謝の意を表す。







	門 真・幸 福	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	柏 原・堂 鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
	河内長野・高向	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×
●	岸和田・野田	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	貝 塚・福 田	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	和 泉・ 万	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	北河内・交野	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
●	南河内・狭山	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	泉 北・忠 岡	○	○	△	○	○	○	○	○	×	○	○	△	○	○	○	×

## 奈 良 県

語		(傘)	出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
△	奈 良・柳 生	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×
	桜 井・ 芝	▽	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▽	×	▽	×	×
	大和高田 ・三倉堂	△	△	△	△	△	△	△	×	△	△	△	△	△	△	△
×	山 辺・都 祁	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	生 駒・生 駒	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	北葛城・新庄	△	△	×	×	×	△	×	△	×	×	×	×	△	×	×
	添 上・月 瀬	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
●	吉 野・下 市	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

## 和 歌 山 県

語		(傘)	出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
●	和歌山・松原	○	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	○	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△	ヒ△
●	御 坊・ 蘭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●	田 辺・神子浜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●	新宮・三輪崎	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
●	伊都・かつらぎ	○	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×
	那 賀・岩 出	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×
	有 田・宮 原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日 高・美 浜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西牟婁・串木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東牟婁・勝浦	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	” ・古座	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

兵 庫 県

語		(傘)	出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
×	伊丹・堀越	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	宝塚・西谷	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	西宮・山口	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	明石・魚住	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	● 三田・長坂	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○
	● 西脇・小坂	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○ 小野・福住	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○ 三木・別所	×	△	△	△	△	×	△	△	△	△	△	×	△	△	×
	○ 相生・上	仁	○	エ	○	仁	○	○	○	○	仁	仁	×	仁	仁	○
	○ 竜野・竜野	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	● 赤穂・中広	×	×	×	×	○	×	×	○	△	△	×	×	△	×	×
	● 洲本・物部	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	○ 洲本・由良	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	△	△	△	○	○	○
	○	城崎・香住	シエ	デエ	キャ	○	○	キャ	○	○	ケエ	テエ	ケエ	○	レエ	エエ
×	"・日高	○	○	○	○	○	エ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	× 美方・温泉	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×
	"・村岡	エ	エ	キャ	チ	キ	キャ	エ	ジ	ケ	テ	ケ	○	レ	エ	エ
	養父・八鹿	エ	エ	エ	○	○	エ	○	○	ケ	テ	ケ	エ	レ	エ	ゲ
	氷上・柏原	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	多紀・丹南	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	多可・中	△	△	△	△	△	△	△	△	エ	△	△	△	△	△	△
	加東・社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○
	加西・北条	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	エ
	● 神崎・大河内	エ	エ	エ	○	○	△	○	○	○	エ	エ	○	エ	○	エ
	穴栗・波賀	○	○	エ	○	○	○	エ	○	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
	"・山崎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	"・千種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	川辺・猪名川	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	○ 印南・志方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	○ 飾磨・家島	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	○ 津名・淡路	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	"・一宮	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
"・五色	△	△	×	△	△	△	△	△	△	△	△	×	△	×	×	
● 三原・西淡	△	△	△	△	△	▽	×	△	▽	×	△	×	△	×	△	
"・南淡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	
"・福良	○	△	△	△	×	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	



## 鳥 取 県

地名	語(傘)	出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
● 鳥取・東	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
● 倉吉・横田	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
● 境港・竹内	△	△	エ△	△	△	△	△	△	エ△	△	エ△	エ△	エ△	×	エ△
● 米子・東山	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
● 八頭・智頭	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
” 郡家	○	○	ケエ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
● 岩美・岩美	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○ 西伯・西伯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	エ	○	○	○	○

## 島 根 県

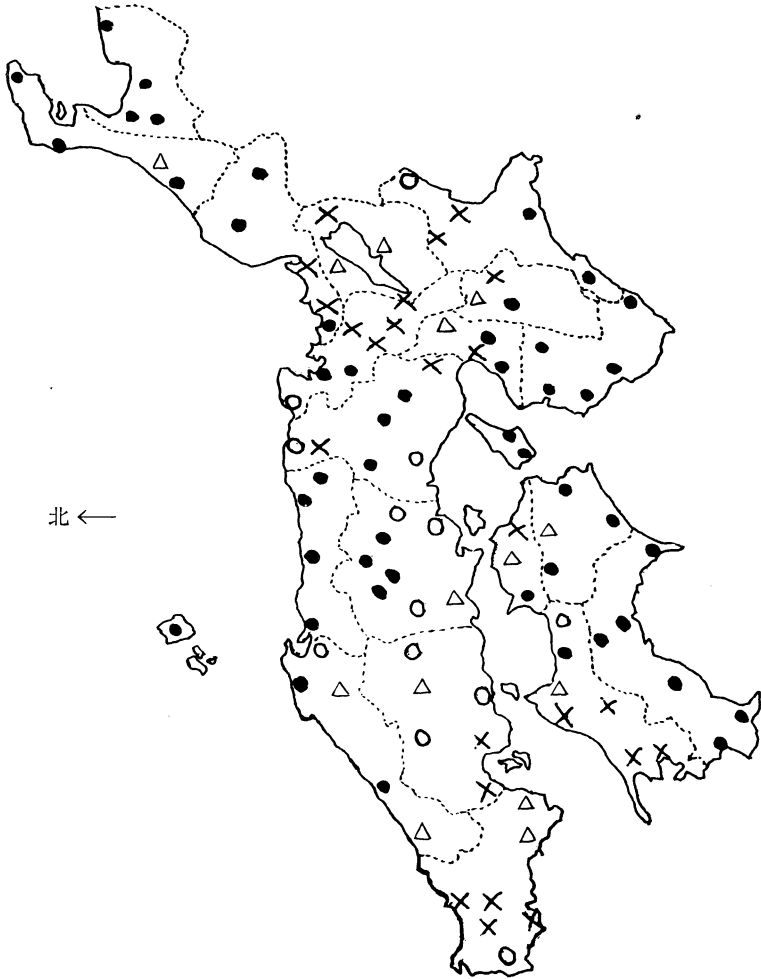
地名	語(傘)	出	浮	写	隠	乾	干	外	残	落	起	押	下	通	流
○ 松江・西津田	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任
○ 平田・平田	任	任	×	任	任	任	任	任	任	任	任	任	任	×	任
● 出雲・大津	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
● 大田・五十猛	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
● 浜田・黒川	○	△	×	△	△	△	△	○	×	×	×	△	○	×	×
○ 益田・中之島	ア△	ア△	×	×	×	ア△	×	×	×	×	×	×	×	×	ア△
▽ 仁多・仁多	▽	▽	エ△	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
○ 邑智・邑智	○	○	○	○	○	ア△	○	○	○	○	○	○	○	×	○
○ 鹿足・津和野	ア△	ア△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	ア△
○ 周吉・西郷	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	×	○
● 隠智・五箇	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○ 海士・海士	任	デエ	ケエ	チイ	キイ	ケエ	ヘエ	ジイ	ケエ	テエ	ケエ	×	レエ	エ	ゲエ











- 「傘さして」が「傘サイテ」となる地点 ●
- ならない地点 ×
- 「サエテ、サヒテ」などとなる地点 ○
- 老人層のみ「サイテ」となる地点 △